

## 社会福祉法人ふたば園（法人総括）

### 令和6年度事業計画に係る概況について報告

#### (1) 新規事業

- ① 萩市意思疎通支援（設置・養成・派遣）の3事業を受託した。
- ② 令和6年5月9日に三見三田八幡宮においてさんみ苑分室ほうぷの安全祈願祭を行い、令和7年3月31日に協和建設工業より引き渡しを受けた。
- ③ さんみ苑従たる施設の整備については設計、設計管理、造成、建設の各契約を完了し、建設工事については令和6年5月から着工している。

#### (2) 継続事業について<各事業拠点別 事業報告 参照>

#### (3) 緊急時対応策

BCP（事業継続計画）に基づき机上での訓練を実施した。

#### (4) 経営計画

##### ① 法人組織の変更

- ・ 園長職を廃止し、4施設長及び事務局長を加えた5名で毎月開催の施設長会議において協議・合意の上、法人の経営、運営を実施した。

##### ② 経営戦略

令和6年度は収入増を図るとともに、人件費の抑制が功を奏し利益の黒字化を図ることができた。一方で新たに始めた資産運用については、令和7年3月の円高の進行やアメリカ経済の影響から株価が大幅に下落したことを受け約450万円の損金計上となった。

#### 人材確保

- ・ 令和6年度の退職・新規採用（内部登用除）は、以下のとおりである。

#### 退職

区 分	正職員	準職員	契約職員	パート職員	合 計
からふる	0	1	0	6	7名
えーる	0	0	1	0	1名
さんみ苑	2	0	1	1	4名
給食	1	0	0	0	1名

デイサービス	0	0	0	2	2名
なないろ	1	1	0	3	5名
合 計	4名	2名	2名	12名	20名

#### 採用

区 分	正職員	準職員	契約職員	パート職員	合 計
からふる	0		0	2	2名
のびっこらぶ	0	0	1	1	2名
さんみ苑 GH	0	0	0	1	1名
さんみ苑	1	0	1	0	2名
さんみ苑デイ	0	0	0	2	2名
デイサービス	0	0	0	2	2名
なないろ	0	0	0	1	1名
合 計	1名	0名	2名	9名	12名

職員数の推移状況は、以下のとおりであった。(各3月31日現在)

	合計	正職員	準職員	再雇用職員	契約職員	パート職員
R5	214人	73人	10人	12人	18人	101人
R6	196人	67人	8人	6人	21人	94人

#### ③ 情報化社会への対応

見守りカメラを設置することで、利用者の安全確保と防犯への備えを整えた。

④土原事業所に相談機関（ほっとすぺーす、ほっとわーく、居宅介護支援事業所）をまとめることで利便性の向上と統一を図った。

#### (5) 職員研修について

##### a 法人内部研修

・11月に虐待防止研修としてひらきの里施設長松本様をお招きし、なぜ虐待が起こるのかについての振り返り等行った。

1月にはメンタルヘルス研修として、保健師の藤井様をお招きし、組織人としてできることをテーマに行った。

その他内部研修は各事業所において随時実施することで知識、技術の向上

を図った。

b 各種外部研修

- ・県内外で開催される各種研修に参加した。

(6) 役員会の開催状況

理事会

開催数	開催年月日	議 題
第1回	令和6年6月12日	・就業規則の変更について ・給与規程の変更について ・令和5年度事業報告及び令和5年度決算認定について ・令和6年度第1回評議員会の開催について
第2回	令和7年3月7日	・第1次補正予算案について ・令和7年度事業計画及び収支予算案について ・苦情解決第三者委員の選任について ・給与規程の一部変更について ・育児・介護休業等に関する規定の一部変更について ・令和6年度第2回評議員会の開催について

評議員会

開催数	開催年月日	議 題
第1回	令和6年6月28日	・令和5年度事業報告及び令和5年度決算認定について
第2回	令和7年3月17日	・令和6年度第1次補正予算案について ・令和7年度事業計画案及び収支予算案について

(7) 監 査

- ・令和6年度 決算監査（令和6年5月30日実施）

(8) 会議開催

① 施設長会議

毎月の定例会議と、必要に応じ随時開催した。法人運営上の基本的課題等について協議するとともに、人事や給与規定の改定等について協議を重

ねた。

② 管理職務者会議

月1回の定例開催とし、主には働き方、研修、送迎効率ワーキングの報告を中心とした協議を重ねた。働き方改革については新たに年休をプールできる制度の提案があった。研修については次年度引き続きとし、送迎については法人全体で一体的な運営を検討したが現時点では難しいという結論に至った。

③ その他

事業毎に関係機関との連携・連絡会議に参加した。

(9) 情報提供

法人事業のインターネットを通じて情報発信・公告の拠点として、ホームページを運営した。

(10) 地域活動

- ・ 9月28日にふたば園まつりを無田が原事業所で実施し、田中市長はじめとした来賓と、多くの地域住民の方にご来場いただいた。
- ・ さんみ地域の公民館祭りについては、障害部門の焼きそば販売、高齢部門の相談ブースの開設を予定していたが選挙の関係で中止となった。
- ・ 社会福祉協議会が主催する地域公益活動推進協議会に参加した。
- ・ 法人が管理する施設設備等の活用推進について  
からふる内のおもちゃ図書館の地域開放については通常通り行った。  
土原事業所の会議室を地域活動団体に貸し出した。

(11) 中長期計画

- ・ 災害への備えとして三見事業所は地元消防団との連携強化を図る目的で研修会を実施した。
- ・ さんみ苑分室ほうぶを活用した稼働率の向上や、地域への貢献を検討した。

## 子ども発達支援センターからふる

### 重点事業方針取組結果（総括）

乳幼児期から段階的に必要なアプローチを行う視点や、子どもの育ちに大切な遊びを通じて支援する視点、子育て支援の観点を持ちながら、専門性に基づく発達支援・家族支援が必要な子どもや家族に対しての支援の充実に努めた。

児童発達支援事業については、例年並みの契約数、安定した稼働率を確保することができた。少子化でありながらも発達の気になる児童は増えており、児童発達支援センターの役割として、施設の有する専門性を活かし地域への支援を担っていくためにも、サービスの質やサービス提供の在り方の検討、職員の専門性を高めていくことが今後も課題である。

### 児童発達支援事業

- ・子どもの発達全般や障害特性・行動特性等をアセスメントし、適切なアプローチを行うよう努めた。
- ・行事や参観日、親子療育など参加型の療育活動と共に、支援の方法や接し方などを伝えたり、保護者同士の交流の機会を提供した。
- ・親子通園を行い、保護者が子どもと一緒に活動することを通して、発達課題や特性を理解したり、関わり方を知る機会を提供した。
- ・面談や親子療育等の機会を通して、子育ての不安軽減を図り、安心して前向きに子育てに取り組むことができるように努めた。
- ・年長児を対象に、就学説明会や学校訪問、学校体験の機会を提供した。また、引継ぎ資料を作成し、就学先の担当者に引継ぎを行う等の連携を図り、安心して親子が就学を迎えることができるよう取り組んだ。
- ・並行利用先の保育園・幼稚園と連携し、子どもの状態の見立てや、事業所としての取り組みのねらいを共有したり、助言を行った。
- ・療育のお知らせや感染症等の情報を、メール配信ツールを活用してタイムリーに保護者に提供を行うよう努めた。
- ・毎月事業所内研修やオンライン研修等を活用して職員の資質向上に努めた。
- ・萩市5歳児相談会への参加や幼稚園・保育園巡回等、地域の発達が気になる子どもの相談や支援に努めた。
- ・おもちゃ図書館を定期的に地域開放し、子育て相談や手作りおもちゃの会など地域の子育て支援に努めた。

### 保育所等訪問支援事業

- ・訪問先の担当者との情報交換を定期的に行い、本人及び施設に対しての支援の充実に努めた。

- ・担当者一人が支援を行うため、支援方法について定期的にケース会議をもち、偏った支援にならないように多方面から分析を行い、支援内容の充実を図った。
- ・発達特性に合わせた支援、施設に対しての支援を行っていくための高度な専門性が必要であるため、職員の専門性を高めていくことが課題である。

## 《委託事業》

### 山口県こどもの発達支援体制整備事業

1. 質の向上と人材育成（職員の専門性を図る）
  - ・ 日常の療育、支援についての指導・助言。
  - ・ 療育内容についての研修の実施。
2. 地域における障害児支援の質の向上
  - (1) 保育所等に対する地域のインクルージョンの推進
    - \* 保育園・幼稚園訪問支援：32回
      - ・ 保育園等の施設に訪問して、発達が気になる子どもへの支援方法について、職員に対して助言等を行った。
      - ・ 保育園等からの要請を受けて訪問し、専門的な観点から子どもの見立てを行い、必要に応じて療育支援等への勧奨を行った。
  - (2) 「気になる段階」の子ども等と家族へのサポート
    - \* 親子教室（さくらんぼ教室）の実施：延べ91人
      - ・ 1歳半健診、3歳半健診後のフォローの場として親子教室を開催
      - ・ 就学前の児童を対象に理学療法士や臨床心理士による個別相談や指導を行った。
    - \* 臨床心理士による外来心理相談：15回
    - \* 理学療法士による外来運動発達相談：3回
    - \* おもちゃ図書館地域開館日に発達相談を実施した。
  - (3) 地域の事業所等への研修等の実施
    - \* 萩幼稚園職員対象：1回
    - \* 発達支援に関わる支援者対象：1回

### 萩市発達障害児地域支援体制強化事業

- ① 12月に発達障害児に関わる方を支援者対象の講演会を実施した。  
参加者合計：42名
- ② 年間4回ペアレントメンターグループ相談会を実施した。  
相談者合計：27名

### 日中一時支援事業

- ・ からふるのみ利用されている児童を対象に、6名の受け入れを行った。

令和6年度利用実績 児童発達支援事業：定員30名 \* ( ) はR5年度実績

	契約数	利用延人数	開所日	平均利用者数	稼働率	前年比
4月	65 (58)	636 (652)	20 (20)	31.8 (32.6)	106.0 (108.7)	108.2
5月	65 (61)	727 (661)	21 (21)	34.6 (31.5)	115.4 (104.9)	94.2
6月	63 (60)	648 (703)	21 (21)	30.9 (33.5)	102.9 (101.9)	90.7
7月	62 (61)	724 (664)	22 (21)	32.9 (31.6)	109.7 (105.4)	100
8月	62 (61)	600 (473)	20 (20)	33.0 (23.7)	100.0 (78.8)	106.2
9月	61 (61)	596 (660)	19 (21)	31.4 (31.4)	104.6 (104.8)	103.4
10月	60 (57)	709 (679)	23 (23)	30.8 (29.5)	102.8 (98.4)	101.4
11月	60 (62)	606 (543)	20 (19)	30.5 (28.5)	101.0 (95.3)	92.6
12月	60 (62)	655 (641)	20 (21)	32.7 (30.5)	109.2 (101.7)	97
1月	60 (63)	632 (622)	19 (20)	32.7 (31.1)	109.1 (103.7)	94.1
2月	59 (63)	571 (645)	18 (20)	31.7 (32.3)	105.7 (103.7)	88.5
3月	59 (62)	599 (579)	20 (23)	30.0 (25.2)	99.8 (83.8)	83.4

\*体調不良等での欠席や、併行利用が多いことから保育園や幼稚園の行事等の影響を受けやすい状況がある。

\*年平均は105.7%で、昨年度（100.3%）よりも伸びている。

令和6年度利用実績 保育所等訪問支援事業 \* ( ) はR5年度実績

	契約数	実利用者数	利用延人数	前年度比
4月	11 (9)	11 (9)	21 (19)	110.5
5月	11 (11)	11 (11)	21 (19)	110.5
6月	11 (16)	11 (16)	21 (24)	87.5
7月	11 (16)	11 (16)	19 (28)	67.5
8月	11 (16)	11 (16)	15 (23)	65.2
9月	11 (17)	11 (17)	19 (30)	63.3
10月	11 (19)	11 (19)	21 (35)	60
11月	12 (18)	12 (16)	23 (27)	85.2
12月	12 (18)	11 (17)	20 (26)	76.9
1月	12 (19)	11 (19)	22 (30)	73.3
2月	11 (19)	11 (18)	19 (28)	67.9
3月	11 (20)	11 (20)	18 (34)	52.9

\*5歳児相談会后（夏～秋頃にかけて）から利用希望が増加する傾向があるが、今年度はなかった。

\*訪問先の行事や保護者の都合で利用調整が難しく支援提供の頻度が減ることもあった。

## 放課後等デイサービスのびっこくらぶ

### 重点事業方針取組結果（総括）

子どもたち一人一人の成人期の発達を見据え、段階的に必要なアプローチを行う視点を持ちつつ、その子らしくのびのびと楽しく安心して過ごせるように、療育支援・余暇支援・家庭支援に取り組んだ。また、関係機関である学校と連携して情報共有を行いながら、個々の発達状況に応じた支援に取り組んだ。

感染症の影響を受けることが減り、昨年度に比べ稼働率は伸びているが、利用調整を行わざるを得ない状況は続いており、保護者のニーズには十分応えることができていない現状がある。

### のびっこくらぶ

- ・それぞれの児童の課題や目的に応じた、集団及び個別の支援を提供できるように努めた。
- ・集中しやすい環境を整えたり、タブレットやカード等を活用して視覚支援を行うことで、自発的かつ意欲的に課題に取り組むことができるようになった。
- ・活動内容を話し合う機会を持ち、本人たちの希望を取り入れることで、主体的に活動への参加を促すことができた。
- ・地域の社会資源（公園や博物館等）を積極的に活用して、様々な経験ができるように努めた。
- ・個々の能力に応じたお仕事活動で作品作りに取り組み、からふるの児童との交流の機会をもつ等、目的をもって積極的に活動に取り組めるよう努めた。
- ・トラブルも多いが友達同士で励ましあったり、助け合ったりしながら活動を楽しむ姿が増えてきた。自分たちで考えたり、話し合ったりする場面を増やしていくことで、活動に対する意欲が見られるようになった。
- ・小学校や児童クラブなどの関係機関と定期的に情報交換、ケース会議等を行いながら、本人の目標や課題、支援について共有する機会をもった。
- ・お知らせや感染症等の情報を、メール配信ツールを活用してタイムリーに保護者に情報提供を行うよう努めた。

令和6年度利用実績 のびっこくらぶ：定員10名

\*（ ）はR5年度実績

	契約数	実利用者数	利用延人数	開所日	平均利用者数	稼働率	前年比
4月	55(52)	54(42)	267(236)	22(22)	12.1(10.7)	121.4(107.3)	113.1
5月	55(52)	53(48)	288(261)	24(24)	12.0(10.9)	120.0(108.8)	110.3
6月	57(52)	53(49)	291(278)	25(25)	11.6(11.2)	116.4(111.8)	104.1
7月	59(51)	51(45)	246(243)	24(22)	10.3(11.1)	102.5(110.5)	92.8
8月	60(51)	52(47)	182(237)	20(22)	9.1(10.8)	91.0(107.7)	84.5
9月	60(51)	53(47)	218(257)	23(24)	10.5(10.7)	94.8(107.1)	88.5
10月	59(52)	55(48)	273(243)	26(25)	10.2(9.7)	105.0(97.2)	108
11月	58(53)	54(49)	245(250)	24(24)	11.1(10.4)	102.1(104.2)	98
12月	58(53)	53(50)	255(251)	23(23)	11.1(10.9)	110.9(109.1)	101.6
1月	57(53)	52(49)	262(235)	22(22)	11.9(10.7)	119.1(106.8)	111.5
2月	57(53)	53(50)	233(233)	22(23)	10.6(10.1)	105.9(101.3)	104.5
3月	57(53)	53(50)	264(233)	24(24)	11.0(9.7)	110.0(97.1)	113.3

\*8月は夏休みのためいつもよりも早く利用希望をとるため、利用日が家庭の用で急に欠席になることがあったため、平均利用者数が定員に満たない状況はあったものの、年平均は108.4%で昨年度(105.6%)よりも伸びている。

\*昨年度同様、定員に対して利用希望が多かったが、えーるで小学生の対応を行ったことで利用調整は多少軽減された。

## なないろ（多機能型障害者福祉サービス）

### ■重点事業方針取組結果（総括）

#### 1. 利用者主体

様々な場面で利用者や家族へのアンケート調査実施し、活動や支援に利用者の思いが反映されるような工夫を行った。そのことにより、利用者から「〇〇したい」と日常的に意見がでるようになってきている様子が見られている。反面、日常的な活動のマンネリ化が見られており、課題となっている。

- 就労希望（一般就労・A型就労・作業内容）
- 日帰り旅行の行先
- 希望する活動内容 など

#### 2. 経営改善・生産性の向上について

**A型**：職員の給食提供を行わなくなった結果、年間を通じて約900万円の収入減となったが、喫茶の売り上げと弁当売り上げが上昇し、ある程度の補填ができた。

**B型**：共同受注ポスター（自立支援協議会で作成）を見て、草刈りや草取りの個人発注の仕事が増えてきていることで、平均工賃は昨年度より工賃は向上している。

**生活介護**：施設が部屋ごとに分かれている作りになっているため、人手不足を感じやすい状況であった。間仕切りのあった部屋を広くしたり、利用者の社会性の状況を把握しながら、部屋の利用人数等を増やすなどしたことで職員不足を感じにくい環境を整える事ができ、職員の動きやすさを確保することはできた。今後は、利用者支援を充実させながら、より職員間で連携がとりやすいシステムを考えていく必要がある。

#### 3. 職員の質の向上

強度行動障害の利用者や精神障害の利用者が増加傾向にある。

生活介護は、重度支援の対象者が59%となり、より細やかな支援が必要な状況になっている。外部研修への参加だけでなく、職員同士での連携や全員の専門性の向上が必要な状況となっている。

就労A型やB型に関しては、精神障害の利用者が増加している。それに伴い、安定した就労や通所が継続できるように、より専門的な支援が重要となってきている。A型ではそれぞれの利用者の状況に合わせて、定期的な振り返りを行うなどより手厚い支援が必要になってきている。

### ■その他報告事項

#### 1. クラスタの発生（コロナ感染症）について

令和6年8月に職員、利用者合わせて22名のクラスタが発生し、2日間の休園を行った。11月にどのような感染予防ができるかを訪問ラウンドと研修を含めて感染対策室の方に来ていただき、再度確認を行った。

## なないろ利用者状況詳細

### 1. 生活介護平均利用者数(定員数:22名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用者数	447	437	412	462	327	398	481	422	411	369	390	428
開所日数	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22
平均利用者数	20.3	19.8	18.7	21	14.8	18.1	21.9	19.2	18.7	16.8	17.7	19.5

### 2. 就労A型事業所(定員数:13名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用者数	179	179	166	180	146	133	150	139	126	124	120	128
開所日数	19	24	25	26	25	23	26	24	22	22	22	25
平均利用者数	9.4	7.5	6.6	6.9	5.8	5.8	5.8	5.8	5.7	5.6	5.5	5.1
個別稼働日	19	23	22	23	23	22	23	22	22	22	20	23
稼働平均	9.4	7.8	7.5	7.8	6.3	6	6.5	6.3	5.7	5.6	6	5.6

### 2. 就労B型事業所(定員数:25名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用者数	563	523	484	525	395	452	437	491	489	462	444	492
開所日数	22	23	21	22	20	19	23	23	23	20	19	21
平均利用者数	25.6	22.7	23.0	23.9	19.8	23.8	19	21.3	21.3	23.1	23.4	23.4

- の期間に関しては、新型コロナウイルスのクラスターの関係で利用者数の減少  
 生活介護・・・概ね利用定員に近い形で推移しているが、重度者が増えている。  
 就労A・・・7月中で就職による退所があった。  
                     経営状況の悪化も見込まれたため、新たな利用者を募集していない。  
 就労B・・・見学者は多く訪れるも利用に繋がらない状況であった。  
                     外作業のできる利用者の減少で作業維持が難しい状況である  
                     高齢化に伴い高齢者支援への移行が始まり、利用者が減少傾向にある。

## えーる（放課後等デイサービス）

### ■重点事業方針取組結果（総括）

#### 1. 個別のニーズに合わせた支援・年齢や発達段階・特性に応じた支援

対象を中高生から小学生までに拡大したサービスに変更したことで、経営的には安定してきつつあるが、利用者の年齢や発達、特性が様々になったことで、集団形成が難しく、本人の希望する活動を組むことが難しい状況となっている。そのことで、個別的な支援を組む必要があり、職員不足が顕著となった。そこを補うため、職員同士で事前に活動内容を共有し、支援方法やそれぞれの動きの確認など職員の質の向上と連携で支援の質が落ちない工夫を行った。

#### 2. 安心・安全内場所・保護者との連携

不登校児の受け入れを始めたことで学校、相談、家族との連携が重要となった。相談しやすい環境を整えていくため、管理者、サビ管を含め、様々な人が会議等に参加することで、皆で子どもたちを見ている安心感を持っていただけるように努めた。メールやアプリによる連絡帳など様々な媒体を利用して相談が活発になっている状況が見えてきている。

民家をリフォームした事業所は、家庭のような安心感を持っていただける状況もあるが、トイレの数不足や使いにくさ、段差、部屋数が多いこと等、職員の目が行き届かない等の課題も上がっている。

### ■その他報告事項

#### 1. 所管の変更

令和6年度9月より、えーるがなないろの所管となっている。変更当初は、子どもの事業所から離れたことで保護者の不安があったように感じているが、徐々にえーる単独での事業所としての形を整えてきている。支援プログラムなども、職員全員で考えていくことで、えーるの特徴を活かしたプログラムを考えるなど、独自性も出てきている。

#### 2. 看護師の配置

年度末に近い時期ではあったが、看護師を配置することができた。そのことにより医療的ケア児の受け入れの為に訪問看護の方に来所していただいていたが、それが減少し、経営的な安定につながった。また、看護師がいることで連携も取れやすく、支援者の安心にもつながっている。

平均利用者数												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用者数	169	203	191	203	135	187	194	205	206	222	211	226
開園日数	22	24	25	24	20	23	23	24	23	22	22	22
平均利用者数	7.7	8.4	7.6	8.5	6.8	8.1	8.4	8.6	9	10	9.6	10.3

## むたがはらグループホーム（共同生活援助）

### ■重点事業方針取組結果（総括）

#### 1. 障害特性に合わせた支援

生活支援員を中心に、本人の状況や特性をリスト化して世話人と共有した。また、状況の変化があった時は、毎月の会議で共有し、支援の差が出ないように工夫を行った。利用者同士のトラブル対応等も、利用者の特性に合わせた支援や声かけを共有することで、安定した生活が送れるようになってきている。

#### 2. 地域移行に向けた自立支援

1名に対し、地域移行に向けた支援を行い、市営住宅への転居に繋がった。クッキングや掃除支援などを計画していたが、クッキングは希望者がいないことで実施はしていない。居室清掃に関しては、3名の方の支援を行っている。整理整頓の仕方やそれを維持するために必要な物などを一緒に考え、貯蓄の計画をし、購入する支援までを行った。

#### 3. 利用者交流

利用者の交流会を開催した。ボーリング大会を開いたが、日頃交流することが少ない第1と第2の方の交流等も行なうことが出来た。参加者が同じ人になりやすいため、活動内容を検討して継続していきたい。

### ■その他報告事項

#### 1. 施設の老朽化

第1むたがはらホームの老朽化が進み、雨漏りや水回りの破損、階段の修繕などを繰り返し行っている。修繕費が増加している状況が続いており、今後の検討が必要である。現在、1室は空きとなっているが、修繕をしないと住めない状況もあることから、新規利用者の受け入れは考えていない。

#### 2. 防犯カメラの設置

利用者同士のトラブルがあり、不満を訴える利用者がいた。夜間の見守り体制がないことや、道路のすぐ横にあることから、トラブルの拡大を防止するためにも防犯カメラの設置を行った。

## 萩市障害者支援施設さんみ苑（指定障害者支援施設）

### ■重点事業方針取組結果（総括）

#### 1. 新施設での支援を見据えた体制作り

令和6年度は、年度開始直前に報酬改定の具体的な内容が分かり、提供時間の変更やそれに基づく勤務時間の変更など、年度の前半はその対応に追われることになった。

ほうぶの建設は4月16日に開始され、毎月の打合せ会議で、年度内の完成に向けて、工事の状況やスケジュール確認、事業所としての要望等、各種確認を行った。

##### ① 入所者の日中活動の取組強化

ほうぶの利用を見据えて、1日の流れの見直しを行い、入浴開始時間と夕食開始時間の変更を行った。それに伴い、職員の勤務時間の変更を行った。職員の出勤時間がこれまで以上に揃わなくなった関係で職員朝礼を廃止したが、細かい打合せや修正事項等の情報を全体で共有することが困難になり、一部に、日常的なコミュニケーション不足が発生する結果となった。

##### ② 新規利用者の受入れ体制強化

令和6年度は新規利用者として入所サービスに2名、通所サービスに2名の方を受入れた。各月の利用者数については、資料1の②生活介護事業の月別利用者数にあるように、年度当初は前年度の利用者数を上回っていたものの、8月に入所利用者（日中は別事業所を利用）にコロナ感染が発生。通所型の利用者間に利用控えが生じ、8月・9月の利用者数は減少となった。同じく12月にインフルエンザの集団感染が発生し、利用者数は減少となった。最終的には昨年利用者数よりも29名分微減となり、目標である利用率100%の為には、昨年度末同様に10名の新規契約者が必要な状況である。

##### ③ 医療ケア（喀痰吸引）が必要な方の受入れ体制の安定化

令和6年度も医療的ケアが必要な方の利用が始まり、全体で4名の受入れを行った。当初予定していた介護福祉士の喀痰吸引実践者研修の派遣については、看護師の体制が2名とれていたこともあり見送った。

#### 2. 高齢利用者の支援方針の整備

入所者の高齢化に伴い、介護技術向上委員会を組織し、内部研修を実施した。また、無資格者については、事業団が開催している介護職員初任者研修を受講し、介護の基本を身につけるよう対応した（2名受講）。

嘱託医との連携については、夜間や休日場面で苦慮することが多く、救急搬送や萩・阿武健康ダイヤル24を使用した。今後は、嘱託医をラインワークスのグループに加え、遠隔で利用者の表情や患部の状況など動画や写真を活用し、やり取り行えるように検討している。

#### 3. BCP発動を想定した災害発生時の体制づくり

BCPについては、令和5年に作成したものを見直し、令和6年度更新版を作成した。さんみ苑の北側エリアについては、非常時の電源確保の課題があり、今後検討を行いたい。勤務表作成ソフトについては、複雑な勤務表の組み立てに一定の効果（時間短縮や複数事業兼務者の対応）が見られた。

令和6年度 萩市障害者支援施設さんみ苑 事業別利用実績

①施設入所支援事業の月別利用者数

施設入所支援事業	実利用者数	延べ利用者数	開所日数	平均利用者数	備考
4月	30	816	30	27.2	
5月	30	866	31	27.9	
6月	30	848	30	28.3	
7月	30	877	31	28.3	
8月	30	855	31	27.6	
9月	30	853	30	28.4	
10月	30	887	31	28.6	
11月	30	851	30	28.4	
12月	30	854	31	27.5	
1月	30	848	31	27.4	*入院1名
2月	30	753	28	26.9	*入院1名
3月	30	845	31	27.3	*入院1名
集計		10,153	365	27.8	

前年度 (令和5年度)	前年度比
814	100.2%
831	104%
823	103%
835	105%
843	101%
816	105%
869	102%
853	100%
855	100%
842	101%
768	98%
811	104%
9,960	102%

②生活介護事業の月別利用者数

生活介護事業	実利用者数	延べ利用者数	開所日数	平均利用者数	備考
4月	58	920	22	41.8	
5月	59	941	23	40.9	
6月	59	917	22	41.7	
7月	58	930	23	40.4	
8月	58	828	23	36.0	コロナ感染症流行
9月	57	874	22	39.7	
10月	59	959	23	41.7	
11月	59	893	22	40.6	
12月	57	880	23	38.3	インフルエンザ流行
1月	58	853	23	37.1	インフルエンザ流行
2月	56	754	20	37.7	
3月	57	916	23	39.8	
集計		10,665	269	39.6	

前年度	前年度比
881	104.4%
897	105%
902	102%
890	104%
910	91%
867	101%
925	104%
896	100%
906	97%
876	97%
829	91%
915	100%
10,694	100%

②短期入所事業の月別利用者数

短期入所支援事業	実利用者数	延べ利用者数	開所日数	平均利用者数	備考
4月	6名	38	30	1.3	
5月	8名	44	31	1.4	
6月	7名	47	30	1.6	
7月	6名	43	31	1.4	
8月	5名	22	31	0.7	コロナ感染症流行
9月	7名	52	30	1.7	
10月	8名	50	31	1.6	
11月	9名	54	30	1.8	
12月	9名	54	31	1.7	インフルエンザ流行
1月	4名	17	31	0.5	インフルエンザ流行
2月	5名	28	28	1.0	
3月	7名	35	31	1.1	
集計		484	365	1.3	

前年度	前年度比
26	146.2%
29	152%
36	131%
26	165%
33	67%
10	520%
41	122%
35	154%
33	164%
29	59%
50	56%
63	56%
411	118%

## さんみ苑グループホーム(共同生活援助事業所)

### ■重点事業方針取組結果(総括)

「地域の中で自分らしく暮らす」の理念のもと、入居されている方々がそれぞれのライフステージやライフスタイルに合わせた生活が送れるように支援を継続した。

#### 1. 自然災害等の緊急時対応を想定した地元消防団との合同訓練の実施について

令和6年7月26日(金)に三見公民館で三見消防団第2分団8名と萩市地域防災マネージャーを交え、集中豪雨を想定した訓練の実施に向けての講義を受講し、課題整理を行った。当初は、6年度中に実訓練を実施する予定であったが、日程調整ができず保留となった。

#### 2. 発達障害者等、重度支援対象者に対して専門的な視点での支援実施について

昨年度、配置した生活支援員に加え、強度行動障害支援者養成研修(実践研修)を受講した職員を配置(さんみ苑と兼務)し、より専門的で適切な支援が提供できるように努めた。また、従来から勤務を行っている世話人に対しても、世話人用に作成された動画研修を用いて、専門性について考える機会を持った。

#### 3. 余暇活動の充実について

昨年に引き続き、年間行事に野球観戦を加えて実施した。野球観戦については、前年度、同行が困難だった車椅子を使用している2名も同行され、大変喜ばれていた。また、今年度は月に1回チートデイとして、夕食を自分で外注し準備する企画も実施した。お弁当購入や外食、調理(鍋やカレー等)等、好評だった。

休日の余暇については、生活支援員やさんみ苑兼務職員を中心に、クッキングや創作活動、買い物外出等、入居者が楽しめるように工夫した。

### ■入退所(利用率)の状況について

令和6年度の利用率は、概ね、定員12名を満たす形で推移したが、12月に女性入居者1名が亡くなられ、年度末時点で男性6名、女性5名が入居されている。

令和6年度利用率	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用者数	356	360	356	363	360	356	369	346	336	325	302	333
開所日	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31
								平均利用者数		11.4		

### ■その他報告について

令和6年6月20日に女性棟内でコロナ感染者1名発生。その後、3名に感染したが、29日には終息した。

共同生活 援助事業	実利用 者数	延べ利 用者数	開所日 数	平均利 用者数	前年度	前年度 比	備考	
							体験入居	新規入居
4月	10	272	30	9.1	328	82.9%	1名	
5月	11	285	31	9.2	312	91%	2名	
6月	11	304	30	10.1	316	96%	1名	1名
7月	11	310	31	10.0	315	98%	1名	
8月	10	303	31	9.8	299	101%		
9月	11	296	30	9.9	310	95%	1名	
10月	12	332	31	10.7	297	112%	2名	
11月	12	341	30	11.4	296	115%	2名	
12月	12	365	31	11.8	307	119%		2名
1月	12	362	31	11.7	307	118%		
2月	12	329	29	11.3	278	118%		
3月	12	367	31	11.8	308	119%		
集計		3,866	366	10.6	3,673	105%		

◇利用実績について◇☆令和4年4月1日現在、入居者実数9名

## 萩市デイサービスセンターさんみ苑(高齢通所サービス事業所)

### ■重点事業方針取組結果(総括)

#### 1. 研修の実施状況について

毎月、テーマを決めて事業所内研修を行った。重点方針にあげていた認知症対応、入浴介助、虐待防止については、以下の通り実施した。

- 5月 入浴介助研修 デイ浴室内で片麻痺の利用者を想定し実施
  - 10月 認知症研修 認知症についての座学を実施
  - 11月 虐待防止研修 外部講師による虐待研修を実施
- \*虐待防止については3ヶ月に1度のペースで虐待防止委員会を開催

#### 2. 生産性の向上について

記録・計画作成システム(Rehab Cloud)を導入し、手書きの記録からタブレットによる入力方式に切り替えを行った。これにより、利用者情報の一元化、各種計画の作成(一部AI化)をシステムで管理できるようになり、記録にかかる時間が大幅に減少した。減少した時間を活用し、利用者支援や人不足への対応を図っている。

#### 3. 共生型サービス・障害者サービス移行の方の受入れ状況について

現在の障害福祉サービスに起因する利用者の受入れ状況は以下の通り

- ・共生型生活介護
  - ①支援区分6(肢体不自由 医療的ケア該当)
  - ②支援区分6(外傷性脳挫傷の為、上肢・下肢麻痺)
  - ③支援区分5(重度知的障がい 75歳 入所施設利用)
- ・介護予防・日常生活支援総合事業⇒通所介護
  - ①事業対象⇒要介護1(知的障がい 72歳 就労継続B型利用)
- ・萩市介護予防教室
  - ①支援区分2(知的障がい 70歳 就労継続B型利用)

### ■その他報告事項

#### 1. クラスターの発生(コロナ感染症)について

令和6年12月19日に利用者2名がコロナ感染症に感染。12月25日までの間に、利用者8名、職員5名に感染が広がった為、保健所にも相談の上、1月5日まで休園措置とした。この感染をきっかけに1名の利用者が亡くなられた。事業所としては、職員のマスクの着用は継続しているものの、無症状感染者の存在や身体介護中の密着距離、冬場のホール、送迎車内の換気による温度管理の対策等、多くの課題

が残っている。

## 2. 給湯設備の改修について

令和7年1月から3月中旬にかけて、不具合が多かったボイラー型の給湯設備を電気温水器（高齢）、ガス温水器（デイ）に交換する工事を実施した。工事期間中は、入浴回数を制限し、障がい部門の浴室を利用する形で最低限の保清を実施した。

## 3. さんみ地域ケア会議への参加について

令和6年4月から三見地区で始まったさんみ地域ケア会議に参加し、個別避難計画をはじめとする地域の避難情報の共有や災害発生時の避難所の在り方等、萩市防災危機管理課の職員も交え、毎月、協議を行った。3月には、会議後、ほうぷを見学し、災害時のほうぷの地域開放について説明を行った。

### ■利用状況について（資料1-2参照）

各委員会を中心に、食事・入浴・排泄・活動・機能訓練について利用される方の状況に応じたサービスとなるように努めた。

利用者数については、4月から新規の問い合わせに加え、これまで利用されていた方の状態変化により、利用日が増えることにより、増加傾向となったが、7月の741名をピークとし、その後、徐々に落ち着いた。12月は、クラスター発生や体調不良者の増加、利用控え等により、月間利用者数は486名となった。また、1月から3月中旬にかけて、給湯設備の改修工事が入り、入浴サービスの回数制限を設けた関係で、入浴希望者の利用が減少した。（1月563名 2月569名）入浴サービス再開後は、利用状況が改善傾向となった。

令和6年度利用実績による加算の取得については、中重度加算（通所介護事業の総利用者数のうち要介護3以上の利用者数が占める割合が30%以上で該当）は非該当、認知症加算（通所介護事業の総利用者数のうち認知症高齢者の日常生活自立度Ⅲ以上の利用者数が占める割合が15%以上で該当）については該当となった。

資料1-1 各月の収益状況

月間収益	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
収益合計	6,598	6,002	6,696	6,700	7,097	6,419	6,278	6,288	6,181	5,309	5,233	5,651	74,452
通所介護事業	5,079	4,544	5,163	5,268	5,530	5,010	4,874	4,890	4,776	4,168	4,038	4,270	57,610
総合事業通所型	508	482	421	368	363	363	363	345	358	282	321	379	4,553
公費請求	12	12	7	10	13	7	6	8	9	8	8	8	108
利用者負担	567	555	654	627	726	628	619	637	625	499	514	614	7,265
昼食代等	432	409	451	427	465	411	416	408	413	352	352	380	4,916
介護予防教室	141	132	134	155	149	153	149	127	99	126	126	126	1,617
共生型生活介護	150	142	139	149	131	220	254	224	176	176	59	79	1,899

資料1-2 各月の利用者数

月間利用者数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
萩市介護予防教室 ①	37	34	31	37	36	35	36	31	23	29	29	29	387
共生型生活介護 ②	18	17	16	18	16	27	27	23	18	17	6	8	211
通所介護事業 総合事業通所型 ③	649	665	655	695	619	628	622	642	445	520	528	590	7,258
(内訳) 事業対象	16	20	12	13	11	11	12	11	7	6	6	7	132
要支援1	23	26	24	31	25	29	28	30	21	26	18	19	300
要支援2	54	48	37	34	27	32	16	22	17	16	34	48	385
要介護1	233	237	229	248	228	251	260	256	173	197	211	218	2,741
要介護2	231	223	259	275	269	254	254	272	191	243	215	228	2,914
要介護3	90	109	92	92	54	49	50	49	34	32	42	69	762
要介護4													0
要介護5	2	2	2	2	5	2	2	2	2	0	2	1	24
合計 (①+②+③)	704	716	702	750	671	690	685	696	486	566	563	627	7,856
稼働率(定員35)	77%	79%	77%	82%	74%	76%	75%	76%	53%	62%	62%	69%	72%

中重度ケア体制加算 (非該当)

(延べ利用者数での割合30%≤で加算算定)  
※要介護3、4、5利用者の割合

中重度ケア体制加算	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
X 全利用者の総数 (※実人員又は延べ人員)	556	571	582	617	556	556	566	579	400	472	470		
Y 要介護3、4、5の利用者の総数(※ 実人員又は延べ人員)	92	111	94	94	59	51	52	51	36	32	44		月平均
要介護3・4・5の利用者の 割合(Y/X)	17%	19%	16%	15%	11%	9%	9%	9%	9%	7%	9%		11.84%

認知症加算 (該当)

(延べ利用者数での割合15%≤で加算算定)  
※日常生活自立度Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ利用者の割合

認知症加算	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
X 全利用者の総数 (※実人員又は延べ人員)	50	52	54	55	50	51	49	51	49	46	46		
Y 認知症高齢者の日常生活自立度 Ⅲ以上の利用者の総数	12	14	13	12	10	10	9	11	9	9	9		月平均
認知症高齢者の日常生活自立度 Ⅲ以上の利用者の割合 (Y/X)	24%	27%	24%	22%	20%	20%	18%	22%	18%	20%	20%		21.25%

## ひじわらグループホーム（共同生活援助事業）

### 重点事業方針取組結果（総括）

感染症等もやっと落ち着き、これまで通りの生活や外出活動を取り戻せたような1年だった。入居と退去、体験の動きも比較的多い年になった。

「地域の中で自分らしく暮らす」の理念のもと、家庭的な雰囲気の中で、自分らしく、楽しみのある生活ができるよう継続的に支援した。

#### ◆地域資源の活用

地域の中で暮らすことを実感でき、交流もできるよう、休日の食事や忘年会時に、周辺にある飲食店を積極的に利用するようにした。今までは食事を購入し、グループホームで食べていた利用者が、一人で外食を楽しむことができるようになっていく。

#### ◆集団生活の中でのルールと仲間意識・相談体制の強化と個別支援計画

避難訓練や防犯訓練等を通して、緊急時の動きの確認や入居者同志の仲間意識も回を追うごとに強まっている。自立支援を意識し、できることは継続する、新しいことにもチャレンジできるよう、職員が聞き取り、個人の目標が達成できるよう支援した。

#### ◆食事を楽しむ

各々の誕生日には、希望のメニューを聞き、誕生日ケーキも併せて提供し、入居者同士でお祝いをしている。定期的に食事メニューについての聞きとりを行い、季節感や家庭的な雰囲気の中で食事ができるよう努めた。

#### ◆余暇活動の充実

年3回の余暇活動を実施。ぶどう狩り(萩市田万川)、いちご狩り(山陽小野田市)、蛍ミュージアム見学(下関市豊北)に行き、外出を楽しんだ。忘年会を近隣の焼き肉店で開催し、喜ばれていた。職員との距離も近く、交流にもなり、充実した1年を過ごすことができた。

### **第2 ひじわらほ一む(男性：6名利用) 定員7名**

今年度、入居者の入れ替わりが何度かあったが、総合支援学校卒業予定者の入居希望があり、1年に複数回の体験利用を経て、3月に正式入居が決まった。学校・家族・本人と連携を密にし、環境に慣れ、不安を少しずつ解消し入居に至った。職員不在時の利用者間のトラブルや、体調不良により退居に至ったケースが2件あった。利用者間のトラブルの再発防止のため、廊下と食堂に見守りカメラを設置。今年度より、体験室としていた部屋を入居部屋に改修、変更している。

### **ひじわらほ一む(女性：4名利用) 定員4名**

前年度より、1室空きの状況が継続していたが、8月より1名入居し、満室となっている。防火対策により、カーペットを防災の物に変更した。

## 令和6年度実績報告(定員 男性7名/女性4名)

月 (日数)	定員 数	延べ利用 数	実利用者 数(男性)	実利用者 数(女性)	利用率 (%)	利用者の動き (体験・入居・退居)
4月 (30)	11	330	6	3	76	
5月 (31)	11	341	6	3	75	
6月 (30)	11	330	6	3	75	1(体験)
7月 (31)	11	341	6	3	78	1(体験)
8月 (31)	11	341	6	4	70	1(入居) 1(退居)
9月 (30)	11	330	5	4	78	
10月 (31)	11	341	5	4	82	1(体験)
11月 (30)	11	330	5	4	80	
12月 (31)	11	341	5	4	74	
1月 (31)	11	341	6	4	81	1(体験) 1(入退去)
2月 (28)	11	308	5	4	81	1(体験)
3月 (31)	11	341	6	4	84	1(入居)

※延べ利用者数：帰省・入院等を除いた日数

※利用率(%) = 延べ利用者数 ÷ (定員数 × 月日数) × 100 ※小数点以下切り捨て

## 指定居宅介護支援事業所さんみ苑

### 重点事業方針取組結果（総括）

今年度は、入院後、療養病棟のある病院に転院や施設入所され、在宅生活を断念したケースが多かった。家族の受け入れや介護力もかなり影響しており、療養型病棟や施設も以前に比べ入所しやすい状況だが、事業所内で検討を繰り返し、自宅で住み続けられるよう努めた。障害者の高齢者サービス移行への理解や知識を得るため、相談支援事業所合同の事例検討会を実施スキルアップに努めた。

### 居宅介護支援事業

本人の状態と介護度が合わず、限度額を超えてサービス利用をしており、介護度の見直しを行うも認定されず、支援の提案に苦慮するケースが多くあった。施設入所（要介護3以上）のため、介護度の見直しを依頼する家族も増え、在宅介護に限界を感じている家族が多い。家族の介護負担の軽減、在宅生活の継続、介護サービス事業所の減少の中で、様々な社会資源を活用しながら、支援する必要がある、課題は多く残っている。

### 介護予防委託事業

要支援者を積極的に受け入れた。要支援→要介護になっても担当が変わらず、利用者家族が不安にならないよう関わった。

包括支援センターへの啓発、連携の強化を図った。

#### ◆介護保険制度の改正後の動きについて

研修等に積極的に参加し、他の介護支援事業所・サービス事業所の連携強化に努めた。介護保険制度の改正により、加算や請求等について、事業所で情報共有・共通認識を行い、算定の事故防止に努めた。

#### ◆カスタマーハラスメント

利用者・家族に真摯に向き合って支援を行い、説明責任を果たし、信頼関係を築けるよう努めたが、本人や家族が求めるものと支援が合致せず、関係がうまくいかないため、他事業所に引き継いだケースが2件あった。

#### ◆障がいサービスから介護保険サービスへの移行

移行支援をより円滑にできるように、障害者相談支援事業所との連携を強化し、合同事例検討会の開催等、スキルアップに務めた。

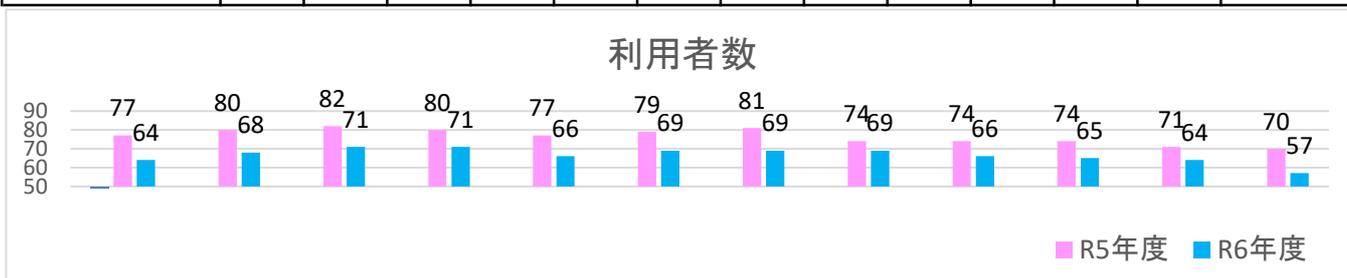
#### ◆経営

今年度より介護支援専門員1名が他事業所と兼務となり、3人→2.5人の体制となった。新規担当利用者は前年度と変わらないが、認定の変更、入院入所により終了、兼務の介護支援専門員の担当数の制限等が重なり、報酬は前年度の2/3となった。要支援者の新規担当は前年度より減少。介護予防居宅介護支援費の総収入も減少している。

## 令和6年度 指定居宅介護支援事業所さんみ苑 実績

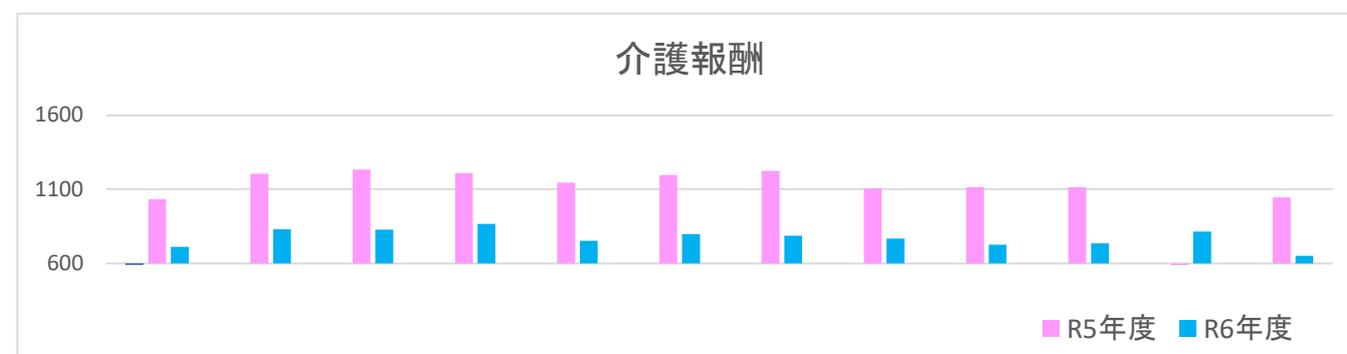
対前年度要介護利用者数比較 ※要支援含まず

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
R5年度	77	80	82	80	77	79	81	74	74	74	71	70	919
R6年度	64	68	71	71	66	69	69	69	66	65	64	57	799



対前年度介護報酬比較 (単位：千円) ※予防給付含まず

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
R5年度	1,033	1,205	1,232	1,209	1,144	1,195	1,223	1,106	1,113	1,115	422	1,044	13,041
R6年度	712	829	828	866	752	797	786	768	726	736	814	650	9,264



対前年度比 3月現在の介護度別人数

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
R5年度	9	15	32	22	10	2	4	94
R6年度	5	15	33	18	4	2	2	79

\*要支援1に事業対象者含む

対前年度比初回加算対象件数 (要介護)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
R5年度	0	5	3	1	2	3	2	1	1	3	1	1	23
R6年度	1	4	3	5	1	4	2	0	1	0	1	1	23

対前年度比初回加算対象件数 (要支援：予防給付)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
R5年度	1	0	2	0	1	3	0	1	0	1	1	1	11
R6年度	1	0	0	3	1	0	0	0	1	1	1	1	9

対前年度比介護報酬比較 (要支援：予防給付) 報酬額単位円 (件数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
R5年度 (件数)	21	20	22	22	24	26	27	28	28	24	25	26	293
R5年度 (委託報酬)	88,782	78,840	98,724	96,576	100,608	116,550	109,434	116,376	110,376	100,608	98,550	102,492	1,217,916
R6年度 (件数)	24	22	20	22	23	23	22	21	20	19	22	22	260
R6年度 (委託報酬)	101,472	87,516	79,560	105,516	97,494	91,494	87,516	83,538	85,560	81,582	93,516	93,516	1,088,280

## 萩市在宅介護支援センターさんみ苑

### 重点事業方針取組結果（総括）

萩市事例検討会、地域在宅介護支援センター連絡協議会・勉強会等、各種研修へ積極的に参加し、居宅介護支援事業所の介護支援専門員や他の在宅介護支援センター相談員との連携強化とスキルアップに努めた。

R6年度から、緊急通報装置の集約先が、周南マリコム（サスケセンター）に移行され、担当エリア内の対象者宅の機器設置と切替に同席し、併せて実態を把握することができている。民生委員や地域住民と連携し取り組むことができた。三見地域ケア会議を定期的で開催し、「地域で取り組む防災」について検討し、関係者との連携を強化することができた。

### **総合相談支援事業**（地域包括支援センターブランチ業務）

#### ◆三見地域ケア会議の定期的開催

R6.2月に立ち上げた地域ケア会議をほぼ毎月開催し、地域防災マップ作りを通して、地域の見守り機能と関係機関（行政・社協・居宅介護支援事業所・相談支援事業所等）としてどう考え、どう動くかを共通認識することができた。

#### ◆相談窓口、福祉サービス、制度等の地域住民への啓発強化

地域の民生・児童委員協議会や生活支援サービス体制事業協議体会議の時に福祉サービスや社会資源等の情報提供をおこなった。地域サロンに出向き、制度の説明や、生活における相談・対応もできている。処遇困難ケースには、実態把握のため迅速に訪問し、リスクを関係者と共有、重点的な訪問を繰り返し、タイミングを見て医療機関や施設等につなぐことができた。

#### ◆「地域包括ケアシステム」を念頭に置いた関係機関・地域との連携強化

民生・児童委員・福祉員協議会／各地区サロン／三見・山田・木間生活支援サービス体制事業協議体へ積極的に出向き、地域の実情の把握を行った。民生委員と情報共有を密に行い、同行訪問数も増えてきている。対応が困難なケースについては、包括支援センターへ相談し、連携・対応することができている。今後は、福祉員との連携も密にし、より細かな地域の把握ができるよう努める。

# 令和6年度萩市在宅介護支援センターさんみ苑 実績

## 相談実績累計

	相談形態別累計							その他	夜間	台帳登録者数
	電話	来所	訪問	FAX	会議	その他	計	調整回数	(再掲)	実数
R5	542	8	414	10	14	666	1654	7	7	0
R6	697	12	343	51	20	305	1428	10	10	0

## 相談内容累計

	生活支援・予防事業											介護保険サービス			医療			認知			
	配食	外出支援	寝具類洗濯 乾燥消毒	ヘルプサービス 生活援助ホーム	訪問理美容	介護予防・特定 デイサービス	ショートステイ 生活支援	緊急通報装置	家族介護者支援	その他福祉 サービス	在宅サービス	施設サービス	その他	入院	退院	その他	本人	家族・親族	関係機関	その他	
R5	160	0	0	0	0	7	1	0	147	39	51	8	8	92	22	11	92	25	2	0	3
実人数	33	0	0	0	0	7	1	0	80	20	33	6	5	48	16	8	35	12	2	0	3
R6	148	0	0	1	3	16	3	9	265	11	78	116	3	149	54	6	136	72	1	0	4
実人数	30	0	0	1	1	8	1	2	93	7	37	56	2	60	34	6	54	25	1	0	4

	精神				家族・親族 関係		虐待				成年後見				その他			合計	
	精神疾患	アルコール依存	閉じこもり	その他	親族・親族間のトラブル関係	地域とのトラブル・苦情	その他	高齢者	障害者	一般	その他	市長申し立て	高齢者	障害者	その他	権利擁護	実態把握		その他
R5	0	1	0	6	6	1	3	0	0	0	2	0	0	0	0	1	107	287	1096
実人数	0	1	0	3	2	1	3	0	0	0	1	0	0	0	0	1	96	106	522
R6	8	15	0	7	23	33	39	0	0	0	1	0	0	0	3		12	59	1279
実人数	2	4	0	7	10	7	23	0	0	0	1	0	0	0	2	4	11	44	537

## 対応実績累計

	相談	情報提供	連絡調整	家庭訪問	取次斡旋	ケース検討	申請代行	会議	研修	苦情	その他	合計	サービス適用実人員	サービス開始人数
R5	715	95	170	275	0	0	59	13	0	1	67	1395	344	59
R6	437	41	221	257	189	0	54	10	0	0	225	1436	304	42

## 実態把握加算の実績

	実施月												合計
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
R5	5	11	15	13	15	21	11	2	7	2	9	6	117
R6	5	2	7	3	22	34	7	11	3	5	2	0	101

## 求めている支援類型

	ケアマネジメント	社会資源の紹介	対人援助	制度説明確認	研修学習	個人の悩み事	同行訪問	その他	合計
R5	0	0	838	27	0	19	1	63	948
R6	44	19	722	67	0	3	8	208	1071

## 地域活動

	地域サロン	体力測定	地域生活体制整備事業	徘徊見守りネットワーク会議	地域行事	地域ケア会議
R5	79	1	15	0	1	2
R6	9	1	10	0	0	10

## 地域活動センターふらっと

### 重点事業方針取組結果（総括）

R6年度は、高齢サービス移行の足掛かりとし、まずは就労サービスを休んで余暇を楽しむことを始めたい方や、休日を人の中で過ごす、生活や仕事・人間関係等での不安なことや楽しかったことを職員に話す、相談することを目的に新規利用をされる方が増えている。5月8月1月には日曜日に開所し、カラオケや食事会等の行事を開催。日頃、仕事等で参加できない登録者の参加や体験として新規の方の参加があった。

#### ◆専門的な支援（障害の特性や個人の希望にあわせた活動や交流）

個別に目標設定が必要な利用者には、目標達成表を作成し、支援した。本人のやる気が向上し、できることが増え、精神的にも安定し利用している。引きこもりがちで人との関わりが苦手な利用者には、個室での対応や、本人の希望する過ごし方や環境を聞き取り、できる限り希望に沿った支援を行っている。

#### ◆地域の中の居場所と幅広い支援

≪5月≫ガスト・ふくだや(土原)・喫茶なないろ(椿東)の3班に分かれ、外食・市内散策・買い物ツアーを実施。  
≪1月≫エスカイヤ(土原)にて新年会を開催。外食した後、ふらっとにてカラオケとビンゴ大会を楽しんだ。

#### ◆他機関との連携

日程や行事のチラシ等、市内の相談支援事業所・生活介護・就労支援事業所・就労・生活支援センター等に配布し、啓発活動を行った。  
利用者の様子に変化があった場合、速やかに相談支援事業所に相談し連携した。

### **基礎的事業**

登録者数は増加しているものの、延べ利用者数は低下している。  
定期的な利用者の減少によるものと思われる。  
日曜日の開催等も試みているが、利用回数や登録者の増加には至っていない。

### **機能強化事業Ⅱ（時間外含む）**

機能強化事業については、平均利用者数15名以上の利用を目指しているが、達成できていない。（1年間の月平均利用者数9.0名／稼働率60%）

### **萩市障害者ピアカウンセリング事業** 年16回開催／延べ利用者数67名

卓球の活動を通じて、障害者同士、障害者の家族による相談対応等に取り組んだ。終了時にお茶を飲みながら、和やかな雰囲気の中交流できていた。

### **萩市本人活動支援事業** 年23回開催／延べ利用者数137名

卓球バレーの活動を通じて、講師と利用者同士が話し合う場等の支援を行った。

日頃の練習の振り返り、大会に向けた話し合いのほか、生活における相談等もできているようであった。11月の至誠館大学の大学祭での大会に参加し、日頃の練習の成果を発揮していた。大会後催し物を楽しみ、メンバー同士の交流をすることもできた。

「10月」消費生活センターによるセミナー「最近の消費トラブルを知ろう」を実施した。クイズ形式でロマンス詐欺・オレオレ詐欺・TVショッピングトラブルについて分かりやすい内容で説明された。

### 萩市生活訓練事業

年間を通じて、ダンス・つまみ細工・お茶・フラワーアレンジメント・クッキング等を行い、体幹や指先の運動、コミュニケーション能力の向上に努めた。

- ・ダンス(年11回)／延べ人数41名
- ・つまみ細工(年11回)／延べ人数26名
- ・茶道(年6回)／延べ人数25名
- ・フラワーアレンジメント(年5回)／延べ人数13名
- ・クッキング(年11回)／延べ人数21名

## 令和6年度ふらっと実績

年月	延べ人数	利用人数(人)	開所日数(日)	登録者数	平均利用人数(全体)
R6.4	209	(基礎5 強化202 時間外2)	21	91	10.0
R6.5	229	(基礎7 強化216 時間外6)	21	91	10.9
R6.6	198	(基礎15 強化174 時間外9)	20	92	9.9
R6.7	207	(基礎4 強化190 時間外13)	22	92	9.4
R6.8	193	(基礎4 強化175 時間外14)	21	92	9.2
R6.9	180	(基礎9 強化158 時間外13)	19	92	9.5
R6.10	194	(基礎9 強化175 時間外10)	22	92	8.8
R6.11	182	(基礎6 強化167 時間外9)	21	92	8.7
R6.12	187	(基礎12 強化159 時間外16)	20	92	9.4
R7.1	200	(基礎7 強化178 時間外15)	20	93	10.0
R7.2	158	(基礎4 強化141 時間外13)	18	93	8.8
R7.3	175	(基礎6 強化154 時間外15)	20	93	8.8

ヘルパーステーションみらい  
(居宅介護・同行援護・行動援護・行動援護・重度訪問介護  
・萩市生活支援事業／訪問介護・介護予防訪問介護)

**重点事業方針取組結果（総括）**

令和6年度は、今一度、自立支援を意識し、本人ができることをできる限りしてもらうよう取り組んだ。介護計画や手順書の見直し、事例検討や研修を繰り返し、情報共有・支援の統一化を図った。ヘルパーの意識・支援方法についても、自立支援に基づいた関わりができるようになってきている。

**◆高齢サービスへの意向・依頼について**

様々な問題があり、高齢サービスへの移行はスムーズに行っているとは言えないが、今後移行のケースが出た場合には、障害サービスとの併用もできる自事業所への要望は多いと考えている。

**◆介護支援計画に基づいた個別の支援と関係機関との連携**

年度当初、訪問時に通常支援以外のサービス提供や時間超過となっているケースがみられた。ケース会議と研修を重ね、すべての介護計画書と手順書の見直しを行った。計画を見直し、サービスの統一化を図ることで、利用者の意識も変わり、できることが増えたケースもある。市内のヘルパー事業所や相談機関とも積極的に連携するよう努めた。

**◆萩市地域生活支援事業(移動支援)について**

移動支援の在り方やサービス内容を振り返り必要性について検討した。移動支援を受託している事業所は、萩市に2か所あるが、実働しているのは自事業所のみ。本人家族の希望に沿った支援を行いたい物の、長時間になった場合、通常の訪問にし寄せが来ており、サービス提供に限界を感じている。移動支援の報酬や要綱の変更について萩市に問い合わせを行った。検討すると返答あり。

**◆介護技術の向上**

山口県ヘルパー協会の研修に参加し、研修後事業所内で復命研修を実施  
講師を招き、①歩行用具②オムツ・パッド・排泄用具の研修を実施  
重度の利用者の安全なベッド移乗について検討し、自宅を想定した移乗の実習  
を実施強度行動障害研修(基礎・実践)1名終了した。  
月1回程度、自分たちの支援を振り返るため、事例検討会を開催した。



## 居宅介護

これまで家事援助の支援が多かったが、身体介護、通院介助が増えている。本人の役割を設定する、ヘルパーの助言を受けながら家事を一緒に行う等、自立支援に取り組んだ。

## 行動援護

社会のルールを体験し学ぶ、体を動かし生活リズムを整える、家族負担の軽減等を目的に利用が増えてきている。R6 強度行動障害研修(基礎・実践)1名終了。

## 同行援護

月1回程度、日曜日に下関までの同行援護のサービスを定期的に提供。これまでは、主に通院介助や買い物等出の同行援護を行ってきたが、R6は本人の行動範囲の拡大、生きがいを見つける支援としてのサービス提供も行った。

## 重度訪問介護

近年利用希望なし

## 移動支援(萩市生活支援事業)

定期的な利用者2名。美容院や日用品の買い物、図書館や外食等への移動支援、自宅を起点や終点としない支援の実施。他のサービスに切り替えられる支援については、見直しを行った。サービスの提供時間や報酬等の課題が残っている。

## 訪問介護

デイサービス等への送り出しや持ち物の準備等の支援が増えている。身体介護は通院や買い物時の介助が多く、調理等の支援はほぼない。

## 介護予防訪問介護

掃除や洗濯の支援が多い。介護予防は身体介護の提供ができないため、通院介助等は障害サービスを併用して利用をしているケースもあった。

## 令和6年度サービス別訪問回数(実人数)

	居宅介護	行動援護	同行援護	重度訪問	移動支援	介護保険	介護予防
4月	154 (23)	—	10 (4)	—	(6)	13 (3)	2 (1)
5月	157 (23)	2 (1)	11 (4)	—	(6)	14 (3)	2 (1)
6月	142 (25)	2 (2)	13 (2)	—	(7)	12 (7)	2 (1)
7月	171 (25)	6 (3)	11 (1)	—	(6)	30 (6)	2 (1)
8月	142 (22)	4 (3)	9 (2)	—	(5)	15 (5)	5 (2)
9月	132 (26)	11 (2)	10 (1)	—	(4)	36 (6)	6 (2)
10月	177 (25)	10 (3)	10 (1)	—	(4)	41 (2)	6 (2)
11月	168 (26)	12 (3)	8 (2)	—	(4)	19 (5)	2 (1)
12月	167 (27)	11 (2)	11 (4)	—	(2)	15 (5)	4 (1)
1月	149 (27)	9 (2)	12 (3)	—	(1)	14 (6)	2 (1)
2月	141 (30)	8 (2)	11 (4)	—	(2)	9 (5)	—
3月	165 (32)	10 (2)	11 (3)	—	(3)	46 (7)	—

※訪問回数：回(実人員：名)

## 萩市障害者生活支援センター ほっとすぺーす

### 重点事業方針取組結果（総括）

4月より福祉センターと土原事業所に分かれ事業を展開した。福祉センターでは基幹相談を中心に3名の職員が従事。基幹相談、計画相談、兼務で意思疎通支援事業と心理検査等業務を行った。分室の土原事業所では4名の職員が計画相談を専門に従事した。2か所の事業所に分かれ業務を行うため、今までスムーズに行えていた情報共有が出来なかつたり、相談体制が取れなかつたりと課題が多々出てきた。相談支援専門員は担当ケース数が多いため、判断や連携に苦慮するケースが多くみられるため、週1回の部内会議や月1回の小会議を活用し、解決に取り組んだ。

萩地域の相談事業所が開所1か所、廃止1か所あった。萩市は東西に長く、事業を廃止した相談支援事業所は東側の中心的立場だったため、事業を廃止する相談支援事業所からのケース移行をどのように進めていくかを萩市や関係機関と協議した。萩市との連携は必須であり、何度も様々な協議を重ね、行政との連携強化を図った。

### 萩市基幹相談支援センター

基幹相談の形がまだまだ確立していないため、今年度は主任相談支援専門員を専任として配置した。萩市の基幹相談の形を作るため、山口県内の委託基幹相談支援センター（岩国、周南、下関）を見学した。各基幹相談の事業内容を一覧化し萩市の基幹相談の業務と照らし合わせた。まずは自立支援協議会の形を変えていく事に着手した。次年度からの新しい仕組みを作るため、行政等と協議を重ねた。萩地域相談支援従事者連絡会においても積極的に研修会、情報共有を行い、相談支援専門員の質の向上を図った。

### 指定特定相談支援事業

令和6年度特定相談のケース数は302ケースで、昨年度より20ケース程多い。これは、事業廃止の相談支援事業所からの引継ぎケースによるものと思われる。計画相談として6名の相談支援専門員を配置し、平均50ケース程を担当。今年度より意思疎通支援事業を萩市より再受託し、計画相談との兼務を行った。心理検査等も継続し、萩市から依頼により、5歳児相談会時に保護者等への相談対応を実施したほか、からふるにて発達検査を実施した。

計画相談のモニタリング用紙への署名の有無について検討を行い、署名を廃止することとした。

### 指定障害児相談支援事業

今年度のケース数は 150 ケースと昨年度と変わらず。放課後等デイサービスえーるを利用する児童が増え、放デイの利用の仕方や支給量の適正化など事業所との早めの調整が必要となった。また初めてからふるを利用する時の保護者や関係機関との連携の仕方などが課題に上がっている。

### 指定一般相談支援事業（地域移行・地域定着）

サービスに繋がっていない障害者について、萩市と連携し現状把握を行った。サービスにつながったケースも数件あった。

## R6 年度萩市障害者生活支援センターほっとすぺーす事業実績

<サービス等利用計画作成対象数>

	令和 6 年	令和 5 年	令和 4 年
指定特定相談支援事業	302 人	288 人	305 人
指定障害児相談支援事業	148 人	150 人	149 人
合 計	450 人	438 人	454 人

<サービス等利用計画作成対象数障害別内訳>

\*手帳は重複あり

	身 体	知的	精 神	発 達	重 心	その 他	合計
指定特定相談支援事業	43 人	179 人	102 人	33 人	3 人	3 人	363 人
指定障害児相談支援事業	7 人	62 人	0 人	31 人	3 人	49 人	152 人
合 計	50 人	241 人	102 人	64 人	6 人	52 人	515 人

### 令和 6 年度相談件数

○相談件数：延べ 9696 件

（内訳）電話：3251 訪問：2814 来所：890 FAX：0 メール：321 ピア相談：0  
その他：2420

○相談者数：延べ 9,878 名

（内訳）本人：3,276 家族：2,012 学校：180 事業所：2,079 保育園：88  
幼稚園：50 関係機関：2,107 その他：86

## ふたば園障害者就業・生活支援センターほっとわーく

### 重点事業方針取組結果（総括）

4月より4名体制でのスタートとなった。経験値が少ない職員でのスタートとなり一人ひとりが担う業務が増えた。自分たちの仕事の仕方を改めて振り返り、なお一層責任感を持って取り組んだ。また、新しくシステムを入れ替え、全データを移行させるのに時間がかかり、記録を打つ作業が中々進まず苦労した。労働局に提出する年次報告書などに対応しているため、必要な情報を慎重に入力した。併せて昨年度より新しいアセスメント様式を取り入れたが、システム入力する内容とリンクしなかったため、アセスメント様式の見直しが課題となった。

地域の就労支援力の底上げのためのセミナーとして、萩総合支援学校の作業学習見学会と懇話会を開催した。作業学習見学会では、生徒さん達の作った製品や野菜に関心を示された長門市のスーパーが販売会を開催して下さり、地域に知っていただくよい機会を設けることができた。

今年度の懇話会は、企業と障害福祉事業所の合同開催とし、障害者雇用について阿武町の企業に講演をしてもらい、ふたば園およびなないろからは、障害者チャレンジ事業から企業へ就労したケースを報告してもらった。後半はパネルディスカッション形式で活発な意見が出ていた。最後に参加者全員で記念撮影を行い、有意義な時間を過ごすことができた。

### 雇用安定等事業

・6年度新規登録者：27名

うち一般企業への就職者：17名 就職率 65.4%

就職率としては、それほど高くないが、定着率は88.2%と高く、就職後、頑張っている仕事に従事されている方が多い状況。登録者の内訳としては、精神障害が最も多くなっている。

・新規企業開拓：4件。障害者雇用が初めての企業が、雇用を前向きに考え、実際に雇用につなげることができた。

・各種セミナーを開催。開催するに当たり実行委員会を開催した。実行委員会から課題を抽出し、その課題を基にセミナーの内容を決めた。

### 生活支援等事業

生活支援担当者2名を配置し、支援を行った。

通院が必要な登録者の通院支援や、金銭管理についての相談等に対応しました。就業に伴う生活支援の必要性を職員全員が自覚し、医療や相談支援等との連携を密に行った。

## 研修、広報啓発実績

### 職員業務研修

- 中国四国ブロック経験交流会議（Zoom） 4名
- 中四国ワーカー連絡会（Zoom） 4名
- 就業支援担当者研修（Zoom） 1名
- 主任就業支援担当者研修 1名
- 就業基礎研修 1名

### 広報・啓発活動

- 作業学習見学会（萩総合支援学校にて開催） 1回
- 懇話会（萩総合福祉センターにて開催） 1回
- 季刊誌発行 年1回
- 法人HP（新着情報）への行事報告掲載 年3回